

信じてても頼ってダメ

応援演説中に銃撃を受けた安倍晋三・元首相が死去して2か月余りが過ぎた。事件の背景にあり、悪質商法などが指摘される「世界平和統一家庭連合」（旧統一教会）などの問題をめぐり、改めて宗教とは、信仰と社会の関係とは何かが注目を集める。曹洞宗の禅僧の南直哉さんと東京女子大学長の神学者、森本あんりさんの2氏の宗教人へ話を聞いた。

(文文化部 道下航)

曹洞宗 禅僧 南直哉 さん



とする社会を作ろうとする志向が強まると、宗教は政治的な動きを始め、過去には暴力を用いた歴史もある。政治も宗教も、自身の正当性を担保し、理想の社会を実現するため、力を利用するものもある。潜在的に相互依存しやすいため、オウム真理教の問題が顕在化した1990年代以降、日本では宗教への不信感が顕在している。だからこそ、今回問題も大きな関心を呼んでいるのだ。

高度経済成長期には、日本社会の中に「成長」という一定の方向性があった。だが、長期停滞の時代に入り、経済不安の中で人間が貧困や病に襲われたとき、なぜこんな思いをして生きなければならぬのかと思つこともあったろう。豊かな生活をしても、老いなどの不安を抱えている人もいる。不安や貧困の中でむき出しになった人間の心に、カルト教団はつけこんでいく。

信じることは、「賭け」だ。捨てる金になるかもしれないが、気持ちのために折る。超越者と人間の等価交換ではない。カネをかけること、神さま仏さまから相応のものが返ってくると思えるのは「取引」だ。これが行き着く先は、「このままか」と地獄に落ちる。「先祖がたたりついている」と、高額なものを売りつける偽りの宗教になる。人間の生と死の理由なんてわからないのに、そこに理由を与えて根底の不安を拡大させていく。

宗教は物事を解決するものだと捉えない方がいいと、私は考えている。信じるのはまわらないが頼ってはダメだ。どんな教えも、真に受けてはいないと、自分の説教ではないかと思つても、生きろ、生きろ、生きろと、生きたらいいようにするのが宗教の役割。「問題は解決しないけど大丈夫だ」と。宗教はつえにはなくても、おんぶはしてくれないものなのだ。

教えを呑みずれば薬にならぬと思つてはいけない。問題の解を幸く相に任せるのは仏教的ではない。仏教もまた、諸行無常なのだから。宗教を信じるならば人を見るのではなく、教えを見る。信仰には、手間がかかる。キリスト教でも教でも、聖書なり經典なり、まず原典を読む。安易に考えたら取引になってしまう。「真に受けるな」とつてしまつたが、腹に落ちる言葉だけ信じれば、間違いは少ないだろう。

社会から厳しい目を向けられている宗教者は、自分の足元と原典を見直すのが先だ。信仰の基となるものを確かめて出直す必要がある。

苦しみは病気と一緒にだから、かかりつけの宗教者を探すことを勧めたい。名医と同じで、必ずしも多く多くはいらなくてもいい。生きる意味や価値を考えると、宗教が与える示唆はとても大きい。宗教を信じるときに大切なのは、神や仏真理を与えるのは、神や仏が真理を与えると思わないこと。切な苦しい私に、どのように生きるのか、どうするかを我々に問いかけている。思つた方がいい。



宗教とは 改めて問われる

安倍元首相のひつぎを乗せた蓋きゅう車と見送る人々（7月12日）

7月11日に記者会見をした世界平和統一家庭連合の田中富広会長（中央）

安倍晋三・元首相が銃撃されて死亡した事件後、漠然と考えていたのは政治と宗教の本質的な近さだ。いずれも人に働きかけるという意味で、精神的にも物理的にも暴力的な側面を持つているのではない。政治は、人々の暴力的な情動を管理し、権力を正当化するために教育をする。民衆に浸透させる点では、ある教えや価値観を信じさせようとする宗教にも通じている。理想



宗教とは、最終的に自分の人生の幸せが何かを自分で決めること

だ。これが歴史には人権の出発点となった。個人の内面の自由という権利がなければ、人権を守ることはできない。信教の自由は政治権力の介入や世間の圧力からこの権利を守ることを意味する。

たとえば、總万長者が大釜を宗教団体に献呈するのは自由だ。多くの人に愚かたで非常識だ

東京女子大学長、神学者 森本あんりさん

と思われても、本人が良いと思つてやっているとやめさせられない。

ただし大前提は、他者に危害を加えない限り、他者からの制約は受けない「他者危害の原則」だ。日本で昨今問題になっているように、家族や子どもという他人の人格に迷惑をかけてまで、自分の信教の自由を行使すること

とはできない。宗教的な使命を口実に世俗の義務を免れることはできず、むしろ義務を遂行することで信頼を得るべきだ。カルト教団は、外から批判すると「迫害されている」と団結して逆効果なので、内部に批判力があるかどうかが鍵になる。

危険な教団かどうかは常識に照らせばわかるが、学問的な線引きは難しい。もともと宗教には、どこか反社会的なところがある。新しい世を語るなら、既存の秩序をよとせす社会に挑戦するような要素が必ず入っているからだ。米国の公民権運動の指導者、キング牧師が「夢を語るように」、宗教の力がなければ巨大で歴史的な黒人差別という現実はいずれも破れなかつたろう。

信教の自由行使 家族に迷惑かけるな